

東日本大震災ボランティア及び被災地レポート



小原和久

2011年5月9日(作成)

日程:2011年4月29日(金)～5月5日(木) 6泊7日

ボランティア参加団体

- ・RQ市民災害救援センター(NPO) 4/29～5/2
(登米市:本部 石巻市河北:現地VC 小網倉浜:活動地)
- ・岩沼市社会福祉協議会 5/4
(岩沼市内)

主な見学地域

田老町－宮古市－山田町－大槌町－釜石市－(大船渡市)
－陸前高田市－(気仙沼市)－(南三陸町)－石巻市－(仙台市)
－名取市－岩沼市－いわき市小名浜

※()内は夜間又はバイパス通過などで写真がありません。

スケジュール

4月29日:川口発 5:00 登米現地本部着 11:30

支援物資整理 廃校体育館泊

4月30日:現地本部発 5:30 小網倉浜着 7:30 9:00～16:00活動

漁具(養殖イカダ用ウキ)の回収 日本財団と共同作業 約250名

現地車中泊

5月1日 小網倉浜にて 9:00～16:00前日同様の活動

河北VC泊

5月2日 河北VC 7:00発 小網倉浜 8:30着 9:00～12:00活動

小型漁船の引き降ろし及びガレキ回収 (強風の為、午後の活動中止)

河北VC泊

スケジュール

5月3日 河北VC 5:30発

被災地廻り(田老町～気仙沼市)

河北VC泊(車中)

5月4日 河北VC 6:30発 岩沼VC 8:00着

被災地廻り(石巻市～岩沼市)

被災家屋の泥かき(ボランティアリーダー) 14:00～16:00

いわき市内泊(親戚宅)

5月5日 午前中小名浜視察

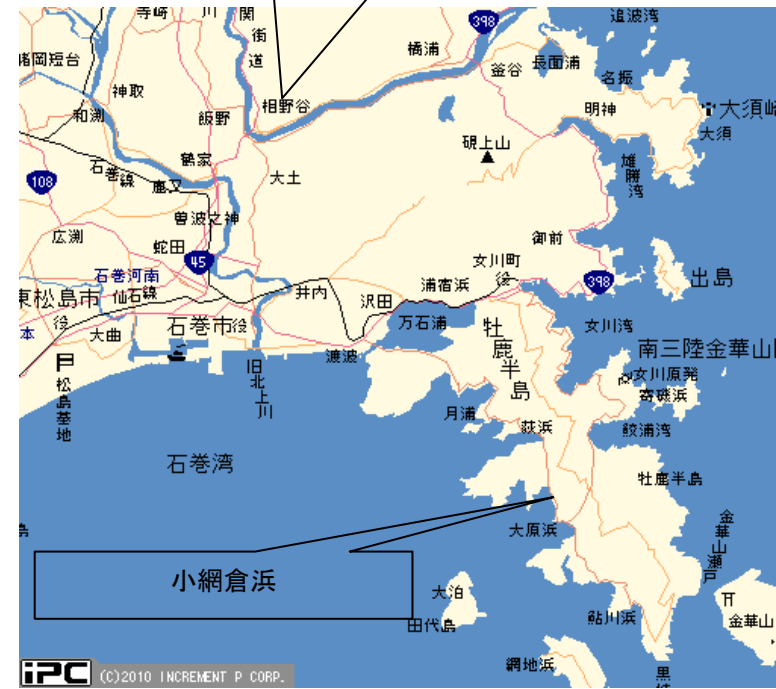
川口 16:00着

ボランティア関連地図

RQ市民災害救援センター東北本部



RQ市民災害救援センター河北VC



岩沼市社会福祉協議会岩沼VC



RQ市民災害
救援センター
東北本部
(登米市)

本部の主な活動
支援物資のデリバリー
被災者へのケア
現地VCへのボラン
ティア派遣

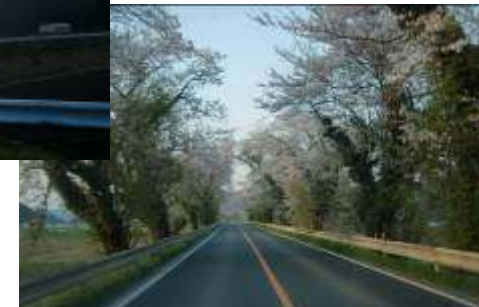


廃校になった鱒淵
小学校の体育館
教室棟は南三陸
町被災者の避難
所として利用

本部の体育館は支援物資集積所
兼ボランティア宿泊所でもある



地震による陥没箇所





河北VC

現地本部のうちの一つ。地元公民館を借り受けている。

当初は石巻市内の泥のかき出し作業が中心だったが、現状牡鹿半島方面の作業が多くなっている。

北上川河口と太平洋

VC近くのお寺の裏山から

この上流に大川小学校がある。





北上川を逆流した津波による被害。

大川小学校

河口から5km上流

河北VCから車で5分位

大川小学校付近は現在通行禁止区域。

VCでは中学生の補修授業なども行っている。なかには実際に兄弟を亡くした生徒もいた。





小網倉浜 今回のボランティア活動の現場。

小網倉浜



神社のすぐ下まで津波がきたらしい。

← 養殖場の海底が見える位の引き潮の後、津波がきた。と地元の方が言っていた。



小網倉浜

海にはガレキが散乱している。

← 右側の小屋は引き波で海にひっぱりこまれた。



ひっくり返った船のところが港。
津波はこの写真の奥まで入ってきた。

養殖に使うホタテ貝の貝殻。
港近くに積んであった。



カキ養殖再開へ手携えて ボランティアが漁具回収 宮城 5/1朝日新聞



このオレンジ色が私です。

津波の被害が大きかった宮城県・牡鹿半島にある小網倉浜、給分浜、小湊浜の3集落(石巻市)で30日、ボランティア約250人が内陸に散乱したカキ養殖用のブイなど漁具の回収にあたった。約4時間半でブイ2千個を集めた。

ブイは高さ約1メートル、幅約55センチのラグビーボール形で重さは約15キロ。海岸だけでなく、沿岸から約500メートルの山林にもブイが流れ込み、地元漁師は困り果てていた。その様子を聞いた石巻市災害ボランティアセンターが「漁具回収プロジェクト」を企画し、県内外の大学生らが駆けつけた。

がれきが散乱するなか、ボランティアは一行に並んでブイをリレー方式で手渡しして運び、漁港近くの空き地に集めた。

カキ生産者の亀山長作さん(58)は「未来が見えないから力が入らなかったが、浜が片付くとやる気が出てくる」と話した。

(藤崎麻里)



ガレキの中から手作業でひとつずつ取り出し、運搬。

ほっておくと自衛隊にガレキ
扱いとして、つぶされ処理され
てしまう。この「タル」の回収は
地元の方の人数だけではどう
にもならない状況だった。

ここに集約。



地元の方は「タル」と呼んでい
る牡蠣養殖イカダ用のウキ。

高さ: 1m 重さ: 15kg

価格: 1万円するらしい。

集積地から遠く、打ち上げられたものは、集積地まで引っ張って持っていくことも。





さらに遠いところからはトラックに
積んで運ぶ。

トラックの積み作業が一番重労働。





集めた「タル」はひもでくくり、整理する。2日間で5000個程集めた。

地元漁師さんが「タル」に着せた消防団のハッピ。この地区でも12名が亡くなり、4名の方が行方不明。



左の写真は、下の写真の→の裏
付近で撮ったもの。

谷あいには打ち上げられた
和船の回収。

人力で、回りのガレキをどけ、テ
コの力で浮かせ、底に棒を入れ
ながら、車が入るところまで、
搬出した。





自衛隊

フジTVクルー

作業中、足裏をくぎで踏み抜いたボランティア。

たまたま近くに東海大医療チームがいた為、応急処置を受けることができた。





岩沼VC

この日(5/4)は約800名のボランティア希望者が詰め掛けた。

海岸線から5km程離れたお宅の庭のド口掻きをした。

活動場所での写真撮影は禁止。





牡鹿半島地区



谷奥まで打ち上げられた漁船

ガレキはほとんど手つかず



牡鹿半島地区



牡鹿半島地区

現地対策本部

津波の被害を免れた高台の地区。(すぐ裏手まで津波がきている。ここ駐車場で一日現地泊した。)

電気・水道は復旧していない。

地元の人も利用する
仮設トイレ



← 炊き出し等、
連絡事項は
じめいろいろ
な情報が張り
出されている。





牡鹿半島地区

日赤病院へ
出産の文字



現地対策本部駐車場に書かれた
「HELP」の文字。

震災直後、道が分断され、通信も途絶えていた為、このような形でヘリに救助要請した。

牡鹿半島地区



電気が通っていないため、信号はついていない。



↑
町の消防団も被災して、十分動けず。

牡鹿半島地区

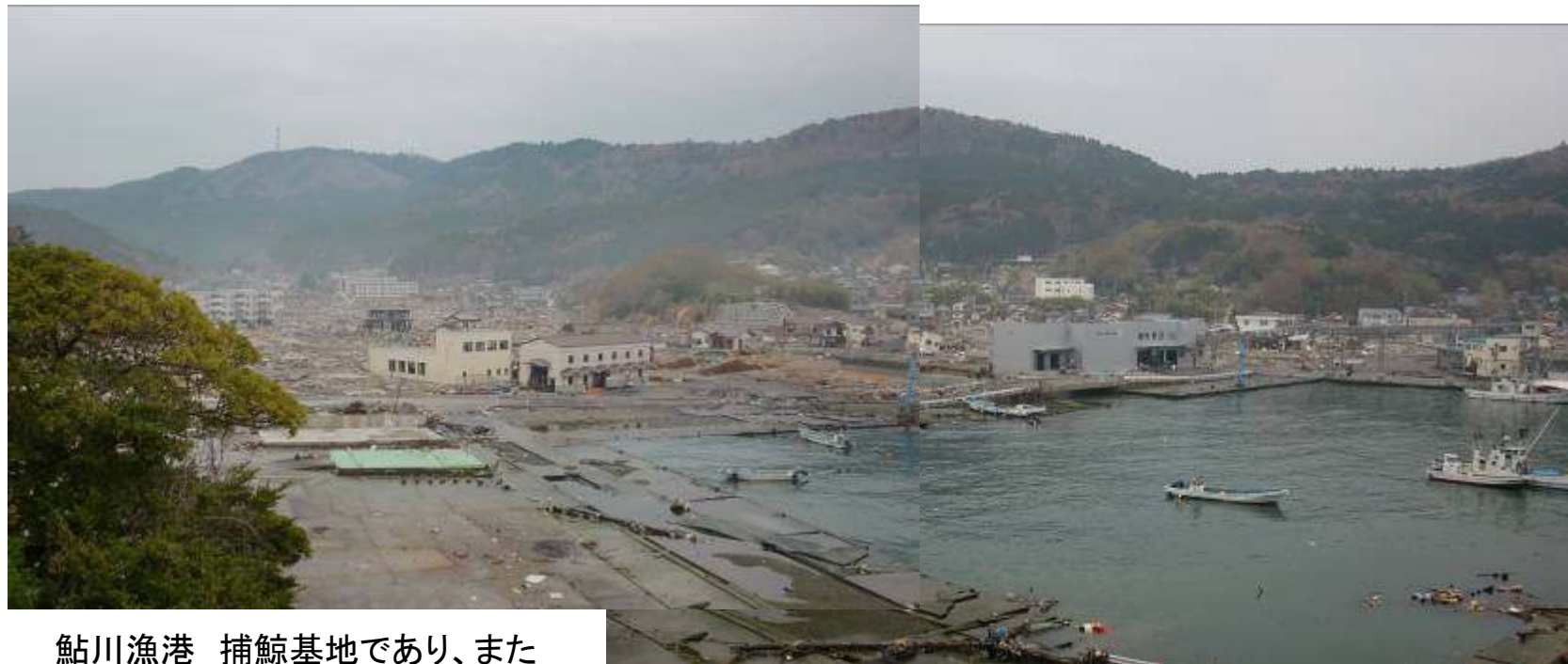


高台に残ったいくつかの民家が避難所になり、被災者同士集まっているところも少なくない。

津波により剥ぎ取られた道路。



牡鹿半島地区



鮎川漁港 捕鯨基地であり、また
金華山への拠点だった。

関連地図



田老町

宮古市

山田町

大槌町

釜石市

陸前高田市

石巻市

名取市

岩沼市

いわき市小名浜





石巻市内





石巻市内





石巻市内

満潮時に冠水する地区



田老町

高さ10mの堤防

明治・昭和の大津波で甚大な被害を受けた田老町は、10mの堤防を備えていた。



田老町

← 堤防より海側



堤防より山側

→
ボランティアらしき人達は見えず、
自衛隊が作業していた。



宮古市





山田町付近





山田町



津波によってなぎ倒された林の跡

大槌町

津波はこの陸橋を超えて入ってきた。橋の欄干が折れ曲がる位の衝撃。漂着物が絡み付いている。



大槌町



道路を挟んで海側も陸側も壊滅的な被害を受けていた。





釜石市郊外

両石付近

ガレキの集積地は満杯状態

谷筋に取り残された漂着物。もはや手作業で回収する他ないか。





釜石市郊外

両石付近

急に激しい渋滞に巻き込まれた。

海沿いの道が崩壊しており、
片側通行となっていた。





釜石市 商店街



釜石市内

スタッフの無事と、支店が営業していることを知らせる貼紙。「共に支えあって立ち向かいましょう」の文字が。赤い旗は取り壊し可の目印

新日鉄釜石工場は高台にある。





陸前高田市



陸前高田市



陸前高田市



この地区は海からは離れているものの、川沿いの為、津波が奥まで遡り、被害がでていた。



名取市



この海岸線から、この車の位置まで津波が来た。

田んぼに取り残された車。





名取市

いわき市小名浜



海岸沿いの道は崩落していた。





いわき市小名浜



関連先URL等

◎ボランティア

RQ市民災害救援センター

<http://www.rq-center.net/>

宮城県災害ボランティアセンター

<http://msv3151.c-bosai.jp/>

岩手県社会福祉協議会

<http://www.iwate-shakyo.or.jp/vc/index.html>

福島県

相馬市災害ボランティアセンター

<http://d.hatena.ne.jp/somasaigai/>

◎支援物資

被災地域の市区町村のホームページをご確認下さい。

まだまだ必要とされているものがあります。必要なものは日々更新されていますので、各ホームページでご確認下さい。